



取扱説明書

『ゲージバルブ』

この度は、弊社製品をご購入いただき、ありがとうございます。

弊社製品を、長期間正しくご使用いただくために、施工・使用される前に、必ず本製品の取扱いを規定する本取扱説明書を最後までお読みください。また、お読みいただいた後は、本製品を取扱われる方がいつでも見ることのできる場所に、必ず保管して下さい。

本取扱説明書は、『ゲージバルブ』に適用します。

安全上のご注意

製品をより安全にご活用いただくために、必ず安全上の注意事項を最後までお読みの上、正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく使用いただき、使用に際しての人的危害や物的損害を未然に防止するためのものです。

また、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するため、本取扱説明書では想定される被害の内容を〔警告〕と〔注意〕に区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



：この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お願い

本取扱説明書は、バルブの運搬・保管、配管取付、操作・運転、保守をご担当になる方々に、バルブの正しい扱い方をご習得頂くための説明書です。

運搬・保管、配管取付、操作・運転、保守作業に入られる前に、必ずこの取扱説明書をご一読くださるようお願い致します。

本取扱説明書で明示してあります、操作、保守、点検上の基準値・制限値は、バルブの保守管理を考慮して定めたものです。基準値・制限値を外れない範囲でご使用ください。

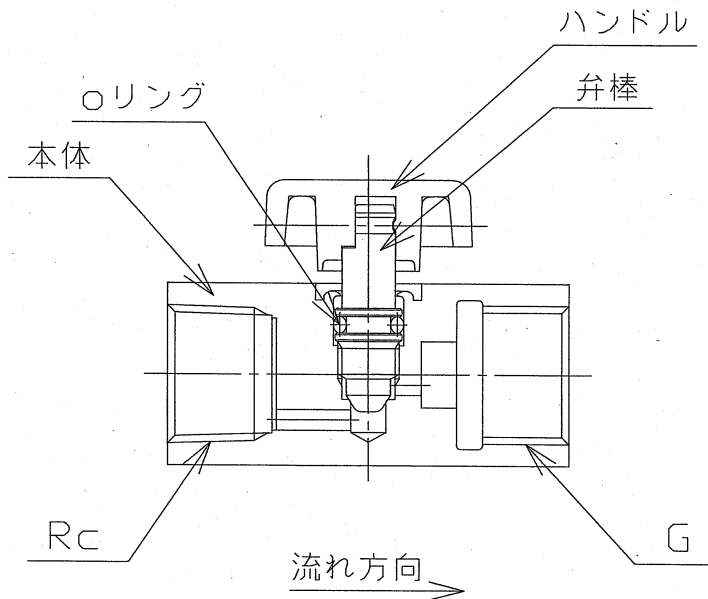
本取扱説明書に使用しました、ご説明用の図面類は基本的なことだけを示したものです。該当する製品の納入品図を参照してください。

※ 本取扱説明書の内容は予告なく変更する場合があります。

⚠ 注意

■ 構造と機能

1. 構造と各部の名称は下図に示すとおりです。
2. 弁体と弁棒が一体化になった構造で、弁棒ねじ部が本体内部で噛み合う弁棒上昇式です。
3. 開閉操作を行うと弁棒及びハンドル車が上下するので、ハンドルの上部に弁棒のリフト分だけスペースを必要とします。
4. 「全開」あるいは「全閉」及び脈動の激しい箇所では「半開」の状態で使用することができます。
5. 流体の流れ方向は一方向になります。



■ 設計上のご注意

1. 納入図に記載された最高使用圧力及び温度内でご使用下さい。
2. 2次側に圧力計やセンサーを取り付ける以外の流体が流れる用途には使用しないで下さい。
3. 蒸気使用につきましては別途お問い合わせ下さい。

⚠ 注意

■ 配管取付け上の注意

1. 配管される前に必ず本体上部に貼付けてあるシール「配管取付け方向（矢印）」を確認して、接続して下さい。
2. 取付ける前に、配管内部のスパッタ、スケールなどの異物を完全に除去して下さい。異物があると弁口径に詰まり作動不良の原因となります。
3. パイプ及び継手のねじは、必ず JIS 規格範囲内のねじをご使用下さい。JIS 規格を外れると、ゲージバルブを損傷する恐れがあります。パイプの端面は管軸と直角とし、バリ、カエリのない平滑な面に仕上げして下さい。
4. ブルドン管圧力計用ガスケットを使用する場合は、ガスケットのずれ等がないよう十分注意してください。
5. パイプのねじ込み過ぎによる管端突き当てのないように十分注意して下さい。ねじ込む際は、パイプ側ねじ部にシール剤またはシールテープ等を用いて接合して下さい。

適正な締付けトルクは、下表の通りです。過大な力でねじ込まないように注意して下さい。

| サイズ (A) | 8 | 10 | 15 |
|---------------|-----------|-----------|-------|
| 締付トルク値 N・m | 15~25 | 15~25 | 20~29 |
| {kgf・m} | {1.5~2.5} | {1.5~2.5} | {2~3} |

6. 取付け作業は、スパナなどの適切な工具を使い、取り付けて下さい。尚バルブ本体の変形・損傷を起こすと外部漏れの原因となります。

■ 分解・組立について

1. 本製品は、分解・組立は出来ません。

■ 保守点検のお願い

1. 日常点検・定期点検を計画的に実施し、異常の早期発見、必要に応じた適切な処置を行って下さい。